

## 政府のコロナ規制に反発する欧米と中国。なぜ、日本人は政府に対して「従順」なのか？ ～政治心理学研究が示す「キバ」をおられた現代日本人の姿～

こんにちは、京都大学大学院教授の藤井聡です。

中国では今、大規模なデモが中国の各地で起こっています。習近平の「ゼロコロナ政策」に対する抗議デモです。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/defd4115b140619f9a8922b7c056b485cdb44f60>

中国では天安門事件以来、住民デモは徹底的に抑圧、弾圧されており、ここまで大規模なデモはまさにその天安門事件以来とのこと。

そして遂に、習近平主席の退陣を求める声も出始めたとのこと。これについて中国専門家である、石平氏は、次の様にコメントされています。

「1949年に共産党政権できてから、国民が公の場で、共産党の最高指導者の退陣を求めたのは、実は初めてのこと。天安門事件の時も、そういうことなかった」

この異例の事態はまさに、中国政府による「コロナ規制」が如何に激しく人々の暮らしを抑圧しているのか、そして、中国人達がそれに対して如何に激しく反発しているのかを示しています。

ただし、こうしたコロナ規制に対する反発は中国においてのみ見られるのではなく、一昨年、昨年と激しい”ロックダウン”が強行された欧米各国でも見られたものです。

つまり、欧米人や中国人は、コロナ感染症を抑止するための行動規制、自由の抑圧に対して、激しく反発し、直接的な政治行動をとるのです。

ところが、我が国日本においてはこうしたデモは全く見られません。

政府が自粛を要請すれば、唯々諾々とそれに従い、皆が大人しく自粛をする、ということが繰り返されてきました。それどころか、自粛警察なるものまで現れて、自主的に自粛をしない人々をつるし上げるといふ現象までが横行しました。つまり日本人は政府の自粛要請に対して、反発するどころか嬉々として付き従うという恐るべき従順な行動を取ったのです。

もちろん、その自粛なるものが公益に叶うことが科学的に明白なものであるなら、この日本人の態度は批判されるよりもむしろ賞賛されてしかるべきだということにはなりますが、そのような科学的証明等は全くなされてはおらず、従順に自粛している人々も、その自粛の有効性を心底信じているわけではないというのが実情でした。

ただただ、皆が自粛しているから、という程度の単なる「空気の支配」によって、政府の自粛要請に対して反発することなく嬉々として従順に従ったのです。

実に恐るべき社会的現象ですが、当方は、この問題について、「なぜ、日本人はデモに参加しないのか？」という事を心理学的に明らかにする研究を、研究室で川端氏や学生と共に行いました。

『日本人の積極的政治参加を阻害する心理要因に関する研究』遠山 航輝, 川端 祐一郎, 藤井 聡 [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/78/6/78\\_II\\_574/article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/78/6/78_II_574/article/-char/ja/)  
詳細にご関心の方は上記論文を御参照頂ければと思いますが、この研究で明らかになったのは、次のような傾向でした。すなわち、日本人は

『だいたい、ホントに正しい事だとか為すべき事なんて何もないんだし、回りの事なんて俺にはどうでもいい。だいたい政治の話なんてヤバイもんなんだし、兎に角、もめ事なん

てまっぴらごめんだよ、だいたい俺なんてナンもできね一奴なんだし』

と思っているから、皆、デモ等の政治行動をしない、という心理学的傾向でした。

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/78/6/78\\_II\\_574/article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/78/6/78_II_574/article/-char/ja/)

(具体的に言うなら、「政治の話はヤバイ」感(政治恐怖・軽蔑度)、「対立は避けたい」感(対立忌避傾向)、「回りの事なんてどうでもいい」感(自己閉塞性)が高ければデモに参加せず、「真善美はある」信念(非ニヒリスト度)、「俺はスゲーんだ」信念(傲慢性)が高ければ思えばデモに参加する、という傾向が統計学的に有意でした。上記の『』内の文章はこれの心的傾向を文章化したものです)

ということは、日本においてデモが起こらず、欧米中においてデモが起こるのは、日本人の方が、

ホントに正しい事だとか為すべき事なんて何もないんだよ」

「回りの事なんて俺にはどうでもいいんだよ」

「だいたい政治の話なんてヤバイもんなんだよ」

「もめ事なんてまっぴらごめんだよ」

「だいたい俺なんてナンもできね一奴なんだし」

と思いがちだから、という事になります。ただし、各種の分析を通して明らかになったのは、

「ホントに正しい事だとか為すべき事なんて何もないんだよ」(ニヒリスト度)が高いか低いか、ということが、政治にどれだけ関心を持つか、という事に対して最大の影響を持っている、ということ。

だとすると、日本においてニヒリズム(虚無主義=ホントに正しい事や為すべき事なんて何もない=真善美なんて何もないんだよという意識)が、諸外国よりもより激しく蔓延ってしまっていることが、日本人が政治に関心を持たず、デモなんか起きない、最大の原因だ、という事が、統計学的・心理学的に示された訳です。

……なかなか絶望的な結論ですが、これが客観的な結論なわけです。

まあ、何が正しいとか間違っているとかってことに興味関心の無い人々に、どんな政治の話をしたって無駄ですよ。彼らにあるのは、ただただ、打算だけ、という事になるわけですから。

……ってことで、日本人全体のニヒリズムを軽減させていくのは至難の業でしょうが、少なくとも身の回りの空間だけでも、そんなニヒリズムを打ち消していく努力を続けなきゃ、こっちが窒息してしまいそうになりますねw

……ということで、また次回！